

「豊田地域審議会意見書」に対する回答

1 地場産業の育成と観光振興

◆ 現状・課題

- ・豊かな自然に恵まれた本市は、果樹栽培など農業を基幹産業として発展してきました。また、農産加工品を地場産品として販売し好評を得ておりますが、販路については十分確立されているとは言えない状況であります。
- ・まだらおの湯やもみじ荘などの温泉施設、道の駅ふるさと豊田、そして美しい自然環境などの地域資源は観光資源として有益なものであります。
- ・JR 飯山線の替佐駅と上今井駅の二つの駅は、本市への玄関口となるものであります。
- ・本市には JA 中野市と JA 北信州みゆきの二つの農業協同組合があり、それぞれの組合が農業に係わる取り組みを行っています。

▼ 提 言

- (1) 地場産業の育成、振興は市の地域経済を強化する上で重要なものであります。りんごや桃、ぶどう、ぼたんこしょうといった農産物と、アップルパイ、おやきや味噌などの農産加工品の消費拡大を図るため、道の駅ふるさと豊田など、既存の販売網での販売促進を図るとともに、広域的な観光振興施策と連携し販路拡大施策を推進されたい。また、同時に温泉施設や自然環境などの地域資源、そして JR 飯山線の替佐駅と上今井駅を活用し、広域的な観光の振興を図られたい。

回 答

農政課・売れる農業推進室・商工観光課

地域の農産物及び農産加工品等につきましては、市の魅力をアピールする手段として、様々な機会を活用して情報の発信に努めております。

横浜市で開催した「信州なかのフェア」等を始め、首都圏の消費者に食していただく機会を設け、市内産の農畜産物、農産加工品の紹介を行っております。

豊田地域には、魅力的な温泉施設、唱歌「故郷」に象徴されるような故郷の原風景があり、それらは訪れる方を魅了するものと考えています。

地域の玄関口となる替佐駅、上今井駅は、北陸新幹線飯山駅開業に伴い、その重要性がますます増えるものと考えており、長野県北部地域を訪れた観光客を誘導し、本市への誘客に繋げることを目的に取り組んでいる広域観光におきましても、引き続き豊田地域の PR に努めて参ります。

▼ 提 言

- (2) 地場産品を広く販売していくためには、全国的に認知されるような質の高いブランド商品の開発が必要と考えます。そのための事業者に対しての支援をお願いするものであります。

回 答	農政課・売れる農業推進室・商工観光課
<p>販路拡大に必要な技術取得の支援といたしまして、市内の生産者を対象として、各種講習会を開催しております。</p> <p>商品開発の支援といたしまして、農商工事業者が参加する研修会を開催し、各事業者の得意な分野での商品開発を進める企業連携を促進しております。</p> <p>さらに、地域ブランド化の推進といたしまして、中野市産地・観光PR用シンボルマーク及び登録商標「故郷のふるさと」の活用を促進すると同時に、フェイスブック等のSNSを活用した積極的な情報発信に努めております。</p>	

▼ 提 言

- (3) 本市にとって農業は基幹産業であり、市の経済基盤を支える重要なものであります。そのため、農業が継続的に行えるよう、千曲川沿いの無堤地区の築堤整備を強力に推進されたい。

回 答	道路河川課
<p>上今井橋下流両岸の築堤事業については、国土交通省へ北信地域千曲川等改修促進期成同盟会等を通じて要望しています。</p> <p>平成26年1月策定の「信濃川水系河川整備計画」に同箇所築堤計画は記載されていない状況ですので、引き続き機会をとらえ無堤地区解消に向けた要望活動を行っていきたいと考えております。</p>	

▼ 提 言

- (4) 地場産品の育成にあたっては、既存組織の枠組みにとらわれず、生産者が必要に応じて柔軟な取り組みができるよう協力いただきたい。

回 答	農政課・売れる農業推進室
<p>特色ある地場産品を育成することは、農産物の生産地として優位に立つことであり、重要なことと認識しています。</p> <p>市内には2つのJAがありますが、様々な面で調整等を図りながら、均衡ある発展を推進することが市の役割であると考えています。</p>	

2 防災体制及び道路網の整備

◆ 現状・課題

- ・千曲川が流れ、周囲を高社山、斑尾山などの山々で囲まれた本市は、自然災害と常に隣り合わせの地形であり、冬の雪害対策や、とりわけ大きな心配として水害や土砂災害の問題があります。
- ・豊田地域と中野地域は千曲川をはさみ東西に分かれる地形となっており、両地域を直接つなぐ道路は上今井橋のみであります。また、部分的に整備されている道路もありますが、全体的な道路整備が遅れていると感じます。
- ・地区によっては指定されている避難施設が非常に遠く、有事の際に避難施設として機能するか不安があります。

▼ 提 言

- (1) 各区が適切な防災体制を整えられるような行政の指導と避難施設の適正な整備をお願いしたい。同時に、豊津、上今井、永田地区など水害や土砂災害の心配のある地域に対して、住民が安心して生活できるよう、総合的に判断して整備を図られたい。特に上今井の本沢川の内水処理の解消に努められたい。

回 答	危機管理課・道路河川課・消防課
-----	-----------------

防災体制の整備についての行政の指導につきましては、本市には、現在、自主防災組織が 30 区に設置されており、有事の際、迅速な活動が行えるよう、消火訓練や応急手当訓練等を実施しております。

市では、自主防災組織が全区に設置できるよう、支援して参りたいと考えております。

避難施設につきましては、地域防災計画において、耐震性がある学校体育館や区集会所等を避難施設として指定しております。

耐震基準を満たしていない集会所等の新築工事や耐震工事などを行う際は、中野市公会堂建設事業補助金などの制度を活用していただきたいと考えております。

今後も、耐震性や規模などを総合的に判断して、避難施設の指定を行って参りたいと考えております。

内水対策につきましては、千曲川の築堤整備に伴い、各樋門に排水ポンプの整備を進めるとともに、排水ポンプ車や移動式の排水ポンプを早期に配備するよう対応して参ります。また、実践に即した水防訓練を実施するとともに、水防資機材の充実を図って参ります。

住民の皆さんが安心して生活できますよう、今後も国や県と連携し、一層の安全対策を図って参りたいと考えております。

▼ 提 言

- (2) 市全体の均衡ある発展、そして災害時に迅速かつ適切な対応をとるためには、道路網が機能的に整備されている必要があります。一般県道の三水中野線、牟礼永江線、南永江替佐停車場線及び主要地方道飯山妙高高原線の整備、そして、国道 117 号（替佐静間バイパス）及び一般県道豊田中野線（笠倉壁田橋）の開通について早期実現を図るとともに、志賀中野有料道路の無料化など代替措置を検討されたい。

回 答	道路河川課
<p>国・県道の改良促進については、中野市土木事業要望会・各期成同盟会等を通じて、事業着手区間の早期完成と未改良区間の改良促進を要望しています。引き続き要望していきたいと考えております。</p> <p>志賀中野有料道路については、平成 37 年 3 月 15 日で料金徴収が終了する予定であります。夜間無料化の社会実験は継続的に実施されていますが、引き続き終日無料化に向けて、中野市土木事業要望会を通じて要望していきたいと考えております。</p>	

3 自然環境の保全と活用

◆ 現状・課題

- ・高野辰之が作詞した唱歌“故郷”にうたわれている自然豊かな原風景は、本市が誇る財産であり、地域住民にとっても心の拠りどころであります。しかしながら近年は、自然環境の破壊につながる危険性もある産廃処理施設の建設計画や、水資源にかかる不明瞭な土地買収なども懸念されております。
- ・千曲川や中小河川が流れ起伏に富んだ地形は小水力発電に適しており、また、公共施設や遊休荒廃農地等においても太陽光発電が可能と考えます。

▼ 提言

- (1)美しい自然は一度破壊されてしまえば取り戻すことは非常に困難であります。国、県や近隣市町村と連携して、環境破壊につながるおそれのある行為に厳しく対応し、自然環境の保全に努められたい。

回 答	環境課
<p>産廃処理施設の建設計画については、県及び近隣自治体と情報を密にし、豊田地域に情報提供して参ります。また、計画内容についても精査するとともに、地元住民の意見を尊重して参ります。</p> <p>なお、千曲川両岸の産廃処理事業者とは、県と市が主導して地元区との連絡会を毎年行っており、今後も継続していきたいと考えております。</p> <p>水源地における目的不明な土地取引等については、県条例に基づく水資源保全地域の指定をすることにより事前に届出が必要となり、抑制に有効であると考えますが、市内の地下水の上流部が近隣自治体管内となっており、保全地域の指定については非常に困難な状況ではありますが、今後も研究して参ります。</p>	

▼ 提 言

- (2) 緑豊かな故郷の自然を子たちに受け継いでいけるよう、童謡唱歌の里づくりを推進されたい。

回 答	政策情報課・文化スポーツ振興課
<p>平成 27 年度に、第 2 次中野市総合計画及び第 2 次中野市国土利用計画を策定するため、計画の施策内容として検討します。</p> <p>童謡唱歌に関しましては、市民音楽祭や晋平記念館まつりなどにおいて、多くの音楽団体に歌っていただいております。</p> <p>市では、本年度、唱歌「故郷」「朧月夜」誕生 100 周年を記念して童謡唱歌に関わるイベントを開催致しました。豊田地域においては、豊田文化センターで開催した「高野辰之記念祭」で、辰之の人物像にスポットをあてた講演会並びに弦楽四重奏によるコンサートで高野辰之先生の功績と唱歌の魅力を広く伝えることができ、「童謡唱歌のふるさと」であることを広く発信して参りました。</p> <p>今後も、童謡唱歌が後世に歌い継がれるように、北陸新幹線開業を契機に信越自然郷などの広域連携の機能を十分に活用し、童謡唱歌の普及に努めて参ります。</p>	

▼ 提 言

- (3) 自然エネルギーの活用について検討し、将来的には地域全体に普及できるような施策を推進されたい。

回 答	環境課
<p>自然エネルギーの活用につきましては、県と市町村が連携した「自然エネルギー推進研究会」の中で、導入に向けた意見交換等を行うとともに、地域特性に応じた自然エネルギーについて、今後も研究して参りたいと考えております。</p>	

4 人口減少・少子高齢化に対する取り組み

◆ 現状・課題

- ・豊田地域には65歳以上の人口が50%以上を占める限界集落もあり、とりわけ農業者の高齢化、後継者不足は大きな問題であります。
- ・少子化により地区の催しに支障がでるなど、地域の賑わいがなくなっていくことが心配されます。
- ・小中学校の適正規模と適正配置など、子どもたちの成長に影響を及ぼす可能性がある問題が検討されております。
- ・豊田地域を運行するバスは親川と信州中野駅を結ぶ永田線が1日8往復、豊田地域内のみを運行するふれあいバスが1往復半であり、公共交通機関の利便性が低い。
- ・空き家バンク制度は移住、定住促進の有効な手段のひとつではありますが、施策が効果的に行われていないと感じます。

▼ 提言

- (1) 基幹産業である農業の後継者の育成施策を図りたい。

回 答	農政課
後継者育成については、JA北信州みゆき、市農業再生協議会等と連携しながら、国の青年就農給付金、市の新規就農者支援事業、北信州農業道場（県事業）などの活用を推進していきます。	

▼ 提言

- (2) 地域の賑わいを創出するためには、若い世代が定住し、子どもを育てていける環境が必要であります。そのためには、積極的なIターン、Uターン施策を行い、人を呼び込む事業を推進されたい。

回 答	政策情報課
平成19年度から、長野県の移住・交流の推進組織である「田舎暮らし楽園信州推進協議会」に加入し、移住、交流の推進に努めており、平成26年度からはフェイスブック等を利用し、中野市の魅力を情報発信するとともに「空き家バンク事業」を開始し、空き家の物件情報の登録を行い、中野市への移住、定住の推進を図っています。また、引き続き「銀座NAGANO」でのイベントの実施、情報パンフレットの配布など、情報発信に努めます。	

▼ 提 言

- (3) 小中学校の適正規模と適正配置の検討については、子どもたちの健やかな成長に配慮するとともに、保育園も含め地域コミュニティの基盤としての役割を鑑み、地域住民の声を聴き、地域住民の意見を尊重し対応していただきたい。

回 答	学校教育課
教育委員会では、児童生徒にとって好ましい教育環境づくりの観点から、小学校及び中学校適正規模等審議会の答申を踏まえ、学校規模の適正化について検討中であり、地域住民のご意見を聞く中で、教育委員会として方向付けをして参りたいと考えております。	

▼ 提 言

- (4) 高齢者や免許を持たない人たちの移動手段として、交通機関の利便性の向上を図られたい。

回 答	政策情報課
中野市地域公共交通対策協議会において豊田地域ふれあいバスの運行を行い、今年度（平成 26 年度）からは長電バス永田線の運行維持のため、長電バスに対し支援を実施し、移動手段の確保に努めています。両路線を残すためには、地域の皆さんの利用が不可欠です。	

▼ 提 言

- (5) 空き家の活用については、空き家の現状把握等の情報収集に努め、効果的な推進に努められたい。

回 答	政策情報課
今年度から「空き家バンク事業」を開始し、空き家の物件情報の登録に努めています。広報なかの、市ホームページ等により、空き家の登録について周知しており、11 月には「空き家バンク活用相談会」も実施しました。引き続き、空き家バンク事業の推進を図ります。	

5 住民主体の協働による地域振興への取り組み

◆ 現状・課題

- ・豊田地域では区長が中心となり、桜並木の手入れや城址整備、蛍の保護活動など、住民の繋がりを大切にしながら、地域の景観整備と地域づくりを行っています。しかしながら、地区ごとの取り組みが、市全体として広くつながりを見せていないのが実情であります。
- ・JR 飯山線駅の無人化や長電バスの路線見直しなど、住民生活に密接にかかわる問題について、情報が市民へ伝わってくるのが遅いと感じます。

▼ 提言

- (1) 住民一人ひとりが手間を惜しまず参加して作り上げたものが広がりを持ち、市全体として住民の絆の醸成とまちづくりへつながることで、さらなる地域振興が期待できます。そのために、地区ごとの取り組みが有機的につながり、効果的に市全体に波及するよう、事業推進をお願いするものであります。

回 答	政策情報課
豊田地域の地域資源を活用し、豊田地域の活性化を図るため、来年度（平成 27 年度）から「地域おこし協力隊」の活用を予定しています。協力隊により、地区、団体等の取組みの連携を図り、地域の情報発信等を行うことで、豊田地域の振興と活性化の推進が図れるものと考えています。	

▼ 提言

- (2) 市民生活に密接に係わる問題について、地域住民がいち早く知ることで地域の問題に取り組むことができるものであります。迅速な情報提供に努められ、地域住民との行政情報の共有を図られたい。

回 答	政策情報課
音声告知放送、広報なかの、市ホームページ等により、市民への迅速な情報提供に努めています。引き続き、地区区長とも連携を密にし、迅速な情報提供に努めます。	

6 地域拠点としての豊田支所のあり方について

◆ 現状・課題

- ・豊田支所は地域住民の日常生活の基盤であると同時に、地域課題への迅速な対応と地域振興の拠点としての役割を担う施設であります。とりわけ豊田地域は自然災害の危険と常に隣り合わせであるため、地域防災拠点として大きな役割を果たしています。
- ・豊田支所は合併当初6課12係制でありましたが、平成20年度からは1課3係制となり職員数も減少しています。そのため、身近な行政サービスの低下、地域課題の把握の遅れ、災害対応力の低下等が懸念されます。

▼ 提言

- (1) 地域防災をはじめとした地域を取り巻く様々な問題に対して、住民と行政が協働して取り組んでいくためには、拠点施設としての豊田支所の役割はたいへん重要であり、その機能の充実が必要不可欠であると考えます。

回 答	庶務課
豊田支所は、豊田地域の事務全般を所掌する部署として、豊田地域の拠点施設としての機能も有しております。今後の支所のあり方につきましては、市庁舎等の整備にあわせ検討してまいります。	